

会報告会 会場報告書

担当班： 第1班 班代表者：向井千尋

概 要			
地区名 : 西紀中 日時 : 令和5年11月16日(木) : 19:00~ 場所 : げんき・げんきハウス 参加人数 : 11人(男11人・女 人)	【出席議員】	(1) 開会あいさつ : 向井 (2) 議会報告 : 小島 (3) 質疑応答 : 小島・足立 (4) 意見・提言等 : 足立・栗山 (5) 閉会あいさつ : 荒木	挨拶・総括 : 向井 司会進行 : 足立 報告 : 小島 記録 : 栗山・山田 会場(マイク) : 荒木

【主な質疑】

質疑・意見(第一部 議会報告について)	回 答
① 合併から20年経過しているが、黒田地域の県道を広げる要望や草山地域への道路改善などが実現していない。小西前県会議員にも要請していた。県の改善プログラムに入っているのか、大上議員にも確認してほしい。	黒田バイパスは社会基盤整備プログラムに計画されていると確認しています。 草山地区への道路改善は社会基盤整備プログラムに計画されていませんが、検討を継続中であると確認しています。
② 西紀保育園の増設は待機児童対策とのことだが、現在の市内のこども園、保育園に未入所のいわゆる待機児童は何人か。 また、待機児童対策には保育士を増やすことが大事ではないか。	令和5年度の待機児童は7人、保留児童は94人です。 今年度、保育を学んでいる大学生や資格を持っている在宅の方に対して見学会などの就職フェアを行い、相談会などに取り組むなど、少しでも丹波篠山市で保育士に就いてもらえるように努力しています。
③ 空き家バンク制度については、登録の条件という敷居が高すぎる。家屋内外の修繕などの費用が掛かりすぎる。もっと登録しやすい制度にしてほしい。 また、空き家バンク登録謝礼金は誰に渡すのか。	令和5年現在、約800件の空き家が報告されています。しかしなかなか提供者となる人は多くありません。移住希望者についての話はよくあるそうです。令和5年度からは登録した時点で、所有者に支払われます。

④ 八上地域の新規参入企業 2 社の地元雇用は何人か。	K 社は 80 人採用予定で、その内地元からも来てほしいとのことです。O 社は機械化部門が多いので 10 人程度の採用とのことです。
⑤ ワクワク農村プランに手をあげた自治会は何件か。	12 月 13 日時点で 7 自治会の申請を確認しています。
⑥ この地域は 70 代、80 代ばかりです。10 年経ったらどうなると考えているのか。	その議論を皆さんで行っていただくのが本日の第 2 部のテーマとなっています。

議会報告会 会場報告書2部 担い手不足

西紀中地区 1班

A こんな地域になったら良いな

【参加者意見・ソフト】

- ・子どもや若者が暮らせる地域
- ・子どもの声が聞こえる地域
- ・人口が増えていく地域
- ・高齢者が楽しめる場所がある地域

【参加者意見・ハード】

- ・特になし

B Aの達成に足りない地域の担い手

【参加者意見・ソフト】

- ・若い夫婦
- ・若者が働く場所（企業）
- ・大規模農家、農業を目指す人

【参加者意見・ハード】

- ・特になし

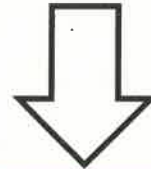
C Bを増やすためのアイデア・提案

【参加者意見・ソフト】

- ・若い夫婦への生活費を補助
- ・給食費の完全無償化、おむつ代無償化など、子育て世帯に手厚い支援
- ・黒豆・山の芋農家への支援

【参加者意見・ハード】

- ・特になし



理想の地域の将来像は

B不足している担い手は

「若者」 で

C担い手不足を解決するためには

「子育て世帯への手厚い支援策」 で

A将来的にこの地域は

「子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域になる」

【考察】参加者の意見から見えてくるもの

- ・地域を継承していくために子どもや子育て世代への手厚い支援策（給食費無償化等）が必要。
- ・農業の後継者を育成するための補助金の充実を望む。

議会報告会 会場報告書 2部 担い手不足

西紀中地区 2班

A こんな地域になったら良いな

【参加者意見・ソフト】

- ・付加価値の高い農業が成功していて、農業者が余裕をもった生活ができている、農業をしたい若者が集まる地域
- ・人同士のつながりが深い地域

【参加者意見・ハード】

- ・特になし

B Aの達成に足りない地域の担い手

【参加者意見・ソフト】

- ・農業に意欲を持つ農業者
- ・若者

【参加者意見・ハード】

- ・特になし

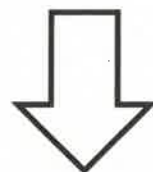
C Bを増やすためのアイデア・提案

【参加者意見・ソフト】

- ・付加価値の高い農産物のブランドを構築し、地域農業にしていく
- ・農産物の6次産業化
- ・3戸に限らず、意欲ある個人農家を応援する支援策

【参加者意見・ハード】

- ・特になし



理想の地域の将来像は

B不足している担い手は

「農業に意欲を持つ若者」 で

C担い手不足を解決するためには

「農産物のブランド化、意欲ある個人農家への支援」 で

A将来的にこの地域は

「収益性の高い農業ができ、人が集まってくる地域になる」

【考察】参加者の意見から見えてくるもの

- ・付加価値の高い農産物のブランド化や農産物の6次産業化を目指したい。
- ・個人農家への支援が必要